

特集 身の回りの災害リスク



私にも夢がある

私は、小さな時から、

赤ちゃんや小さな子が大好きです。

今でもユーチューブで

赤ちゃんの動画をよく見ます。

時々、放課後デイサービスに行った時も、

小学生の女の子と遊んであげます。

一緒に遊ぶと喜んでくれたり、

元気な声を出してくれるからです。

だから、私は保育士になりたいです。

でも、お母さんに話をする、

兵庫県

香山穂奈実



「あんたは、高卒にもならへんからなあ。」
と言われます。

あと一年で支援学校を卒業するけど、
あきらめたくないです。

お仕事をしながら、勉強をして、
いつか夢を叶えたいです。

年をとつて、おばちゃんになつても
保育士になりたいです。

*香山さんは今年春に学校を卒業し、就労移行支援事業所に通所しています。



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからの^{たよ}お便りを^{ほしゅう}募集しています（宛先は44ページ）。
^{せいかつ}生活のこと、^{しごと}仕事のこと、^{くらし}暮らしのことなど^{かん}ふだん感じていることを^か書いて^{おく}お送りください。

家族のかたち 1

わたしたちも言いたい 私にも夢がある 香山穂奈実 2

毎日すったもんだ [第57回] 私のお気に入り 4

特集 知って備える 身の回りの災害リスク⁷

ハザードマップで調べる災害リスク 宮崎賢哉 8

ハザードマップのここをチェック! 10

わが家の避難行動を「見える化」する! 12

自分専用の防災行動を計画できるように 薬師寺明子 14

家庭と学校が協力しながら防災に取り組む 広島特別支援学校PTA防災部 16

「わかりやすい版」で日頃からの備えを 横浜市健康福祉局 18

コミュニケーションボードあれこれ 19

あとと安心 防災グッズ 20

地域とのつながりを大切に 小川優子 24

今月の問題

東京2020パラリンピック後を見すえて 26

ひびき

多様性を育むアートの視点 佐野美里 30

ニュースのじかん 33

くらしを支える福祉の制度 第13回

知的障害のある人の住まい その11 34

ことばの浜辺

祝祭がおわって 池内陽彦 37

中央の動き

全国手をつなぐ育成会連合会の通常総会が開催されました 40

みんなで応援しよう! 東京2020パラリンピック 第16回

オリパラ一体の誇りを、未来につなぐ! 45

枝元なほみのしあわせごはん いち、にっ、さん! [lesson65]

メインになるわかめの料理 46

ちいきのいいもの 第22回

ロングライフマフィン 就労継続支援A型事業所「Jumpin'」 48

表紙絵作者のプロフィール

■松尾学杜 (まつお・がくと) 20歳 ■兵庫県小野市 小野市ひまわり会 ■タイトル ジャクサ

■ひとこと ぼくは宇宙が好きで、わくせいや地球をまわる人工えいせいが好きでかきました。ひょうしになってすごうれしかったです。

知って備える

身の回りの 災害リスク



今年の夏も、大雨による洪水や土砂崩れなどの災害が発生しています。

豪雨や地震など広い地域に被害をもたらす災害であっても、

地理的条件などにより災害発生時に必要な対応や実際の被害状況には違いがあります。

このため、自分の生活環境にはどのような災害リスクがあるのか知っておく必要があります。

今回は、ハザードマップなどを使って災害リスクを事前に把握する方法や、

手軽にそろえられる防災用品などを紹介します。

ハザードマップで 調べる災害リスク

見方と活用方法をお知らせします

私たちが暮らす日本では、地震・津波や台風、土砂崩れなどによるさまざまな自然災害が繰り返り起きています。これは日本の地理・国土の特徴によるもの。
私たちは今までも、そしてこれからも、自然災害と隣合わせで暮らしていかなければなりません。
そんな私たちの命と暮らしを守るために役立つのが「ハザードマップ」。
ここでは、ハザードマップの見方と活用方法を紹介します。

文／災害支援・防災教育コーディネーター、社会福祉士 宮崎賢哉



みやざき・けんや 児童生徒、教職員、社会福祉協議会、企業等への防災教育訓練や災害ボランティア育成、災害時要配慮者支援、公園・緑地の指定管理業務など、幅広い分野で活動する。

チェックしておきたい ハザードマップ

ハザードマップは1991年に発生した雲仙普賢岳噴火、2000年に発生した有珠山噴火の際に「火山ハザードマップ」が注目されたことをきっかけに、全国で作成が進められてきました。

ハザードマップの「ハザード」とは「さまざまな自然現象によって引き起こされる危険」のことを指します。例えば、台風や豪雨によって河川が氾濫したり、低い土地では道路が冠水したりします。こうした危険を地図で示しているのがハザードマップなのです。

災害の危険は、住んでいる地域によって大きく異なります。海に近い地域であれば、そうでないところもあります。山や崖が多い、大きな川が流れている、急傾斜地があるなど、地域によって危険は様々です。このため、ハザードマップは地域の災害特性を把握している市区町村の防災担当部署（危機管理課や防災課など）が作成・公開しています。

注意しなければならないのは、市区町

村によって避難所などの防災関係施設の呼び方が異なる場合があります。例えば、筆者が居住している東京都杉並区では、地震の際の避難所を「震災救援所」と呼んでいます。水害が発生した場合の避難所は同じ場所でも「避難所」と呼称しています。

呼び方は違っても役割は同じなのですが、災害が起きた直後に聞き慣れない言葉を聞くと、混乱してしまうかもしれません。自分や家族が住んでいる市区町村のハザードマップは、ぜひこの機会にチェックして、どのような役割や呼び方があるかを確認してください。

ネットでも見られる

ハザードマップは、役所などの公共施設で印刷物を手に入れることができますが、近年ではインターネットで検索するだけで見ることもできます（例「〇〇市ハザードマップ」で検索）。

また、国土交通省では「ハザードマップポータルサイト」を公開していて、全国のハザードマップ（一部市区町村を除く）を見ることができます。同サイト内